

第5回三重県総合交通ビジョン策定懇話会 議事要旨

○日 時：平成26年10月30日（木）14時30分～16時45分

○場 所：津市羽所町700番地 アストプラザ 会議室1

○出席者：（委 員）草部委員、谷口委員、西脇委員、野村委員、
松本委員（座長）、水谷委員（50音順）
（事務局）三重県地域連携部交通政策課

■交通に関わる情報の収集、共有について

○ 自治体自主運行も含めた交通事業の運行・経営状況や各地の住民活動の優良事例等の情報収集や共有は県の役割として、課題認識のみならず実施や施策に向けても取り組まれない。

■中京都市圏パーソントリップ調査のデータについて

○ 今後の公共交通等の予測結果が8月に出ているので、データの追加を検討されたい。

■ビジョンのイメージ図について

- 将来交通のイメージ図で、集約化していくまちづくりでは中心市街地も活性化させるイメージもあるので、商店街についても表現してほしい。
- 公共交通への自転車の積載を表現してほしい。

■これからのまちや地域の変化に対して

- これからの20年の社会の変化に対して、高齢者は適応しにくくなるので、戦略や希望のあるビジョンとともにそれに対するケアも必要。
- ビジョンで描かれたことを身の回りの地域でどう展開していくかが課題。
- 住民の方々に助け合う、「共助」の仕組みも重要。
- 買い物難民に対する移動販売や宅配の選択技もあり。

■リニアと地域や観光の広域的な活性化に向けて

- リニア開通を契機とした、三重県内各地の観光資源を周遊等するための新型モバイルを使った二次交通の展開。
- リニア開通とともに三重県内のみならず大阪まで紀伊半島を周遊し、県南部の活性化に繋がるようなイメージが必要。
- 複数目的地へのルート検索や外国語表示等の高機能交通検索システムの活用とともに、観光政策と連携した交通政策や生活交通の路線バスを活かした観光施策の展開が有効。

■鉄道廃線の代替案について

- 地域住民の選択技として、これまでの代替バスではなく、次世代の交通システムの技術導入や支援も必要。

■県民に向けてのビジョンの展開について

- このビジョンのままでは県民に理解を得るのは難しい。
- すべてイラストで作成した別冊のビジョンや市民と膝詰めによる対話が必要。
- 映像によるビジョンの紹介。
- ビジョンのエッセンスを抜き出したシンプルな概要版の作成。